

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	すみれ
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022_kani=true&JigyosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活歴や家族との関係性を大切にし、「お互い様の心」の理念の下、自主性や選択肢を大切にし、双方が支えあえる関係性を築きながら自信をもって生き活きと生活が送れるよう支援している。また地域資源や季節ごとの地域の行事も取り入れながら、世代を超えた関わりが持てるように生活支援を行なっている。施設内の行事では外出や夕食等も含め、五感で季節を感じられるように取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念「お互い様の心」を実践し、入居者同士や職員がお互いができることで助け合い、お互い様の気持ちを育てている。「見守りから一人ひとりの把握」など明日香10ヶ条を目標とし、入居者一人ひとりの関わりを大切にしている。運営推進会議では入居者家族の参加も多く、避難訓練時や事業所の行事にも協力が得られ、良い関係が築いている。また、祭りや地域の行事などに参加したり、回覧板にチラシを入れてもらったり、地域との連携を閉ざさないよう努めている。窓からは隣接する小学校の校庭や児童の姿も見える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の会議では、理念を元に目標を立て1ヶ月ごと目標に対する気づきを自己評価をしている。	明日香の理念10ヶ条を基に、各ユニットごとに毎月目標を立て実践している。月1回の職員会議で振り返りの評価を行い、新たな目標の糧となっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、回覧板等通じ地域の方と関わりながら生活支援を行なっている。 また、祭典や敬老会を通じて交流が持てている。	事業所主催の敬老会には、近所の方を招いている。その際には、小学校から TENT や椅子などを借りることができ、近隣の繋がりを育んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の集まりには積極的に参加し介護の相談を受けたり、小中学生の福祉体験の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	防災訓練や行事など、会議で意見を募ったりアンケートを実施し意見を反映させている。	2か月に1回の運営推進会議では、アンケートを行ったり防災訓練を一緒に行うことで、苦労している点などを理解してもらった上で、意見や協力をお願いしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議では、自治会の方を招き日頃の取り組み等伝えながら祭典への参加、餅投げの際など手助けしてもらえるなど協力関係を気付いている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員の参加があり、議事録も市に提出している。介護保険上の不明な点や疑問などは、電話で市役所に確認している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じて身体拘束についての理解を深め、職員同士が注意しあい転倒しやすい方は筋力維持を努め、職員同士状態を伝え合い注意するなど拘束しないよう取り組んでいる。	身体拘束ゼロのポスターを掲示したり、年1回は身体拘束や虐待に関する勉強会を行い、知識を習得している。スピーチロックに関しても注意を払うよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	小さな外傷も見逃さず、外傷がみられた場合は原因背景を探り日頃の関わりの中でも言葉遣い、対応方法にも気をつけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会で学ぶ機会を作り、成年後見制度については家族に説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行ない、改定等があった場合には書面にて事前に伝え、疑問等があった場合にはその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置、家族との会話の中で要望を聞きだし、職員間で情報を共有し反映している。	家族の来訪時には要望や意見などを伺っているが、言いにくい場合などは玄関先に設置してある意見箱を利用してもらっている。年1回、家族アンケートを実施して意見を聞いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	必要に応じて個人面談を行ったり、職員会議でまとめた意見は施設長会議で伝え代表者に繋がるようなシステムが作られている。	管理者による個人面談を行っている。年間目標を立て、年度末には自己評価を行い運営の向上に努めている。	現在、自己評価の期間が1年と長くなっている。期間を短くすることで目標達成度が明確になり、職員の意識が向上することを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所内で使う福祉用具は購入していただいたり、職員の能力に応じて1年に1回昇給する制度を取り入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会を行いながら、必要時には研修に参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	キャリアパスを実施し、他施設の職員と関る機会を設けている。 また、法人内の施設長会議にて互いに話し合い情報を交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、家人より情報を得た上でご本人と関わりながら不要な事や求めている事を聞き取り信頼関係を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時家人より情報を得た上で、運営推進会議など定期的に開催しながら家人との信頼関係を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際にご本人や家人と話したり面会したりする上で、リハビリや歯科利用など必要と判断された場合、提案を行ない希望があれば行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念として「お互い様の心」を掲げており、ご本人が出来る事、あるいはスタッフと一緒に出来そうな事を見きわめ、生活リハビリとして一緒に行う事で関係築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りでご本人の喜びと共に不安やお困りごとなども伝えている。また、変化を感じられたときも家人との連絡をとることで、一緒に支えて行く関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事等に積極的に参加をしていくことで本人と地域との関係性が保てられるよう努めている。	手紙や電話でのやり取りを継続できるように支援を行い、今までと同じ関係が築けるよう努めている。散歩時に近隣の駄菓子屋に立寄り、顔なじみの関係を築いている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活していきながら、互いの関係性を把握しお互いに協力し合えることを見つけ、スタッフが関る事で孤立することなく支えあうことができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所(入院)されてからもお見舞いに伺ったりご家族と交流したりすることで他に入居希望のある方をご紹介していただいたり、差し入れを持って遊びに来て下さったりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外食、外出、行事など本人の希望を聞いて楽しめる様配慮している。また、お墓参りやお年賀等本人の希望をご家族に伝え協力していただきながら本人の意向に即したケアに努めている。	日常の会話からの訴えや要望などをしっかり聞き取り、一人ひとりの思いを把握するように努めている。また、入居時や家族の来訪時にも情報を得られるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時本人の要望を聞き、本人が伝えられない場合はご家族から情報を頂き、今までの暮らしが継続できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護計画、理念に基づく目標から個々に合わせた目標を立てており、また日頃の申し送りから本人の心身状態を勤務者が共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族と相談した上でプランを立て、評価を職員同士で行ない専門化の意見が必要な時はリハビリ、歯医者、往診等に相談しながら介護計画を作成している。	アセスメントはセンター方式を使用している。本人や家族からの情報を入居時から記入して介護計画書に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常記録に気づきや工夫を記入し職員間で共有する事でプランの見直し時に追加したり立て直したりしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の要望を聞き入れ、介護度が高い方でも専門的なサービスが受けられるよう努めている。訪問歯科、リハビリ、美容師など。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭典などの行事に参加したり、年末など地域の老人クラブからタオルを頂いたりしており相互に交流ある事が出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の思いや希望を大切にしながら体調不良時など必要に応じてかかりつけ医に受診する事が出来ている。	毎日訪問看護師が来訪しており、体調不良時には事業所協力医の受診に繋げている。専門医への受診は家族の協力をお願いしているが、職員が同行して日頃の状況などを伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師に来て頂き日々の健康状態を共有し、状態の変化や急変時はすぐに来て頂ける連携をとっており早期の受診に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に際し施設側、病院側との情報交換をすることで円滑な関係ができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルに向けて事前に意向を確認した上で、その都度必要に応じた説明を行ない共有している。	看取りを実施している。入居時に説明を行い、その時期が訪れた時には改めて指針を説明し同意を得ているが、同意書の作成には至っていない。	看取りに関する指針の同意書を得る際には、穏やかに終末期を迎えるために同意に関する書類の作成を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急士による、緊急の対応や応急手当の訓練や、自施設内の勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災の係りを中心に避難訓練を行ったりマニュアル作りを行っている。 地域に対しては災害時の協力を運営推進会議などを通してお願いしている。	年2回避難訓練を行っている。夜間想定訓練や家族の参加を期待し運営推進会議時に行い、アドバイスや意見などを得られるようにしている。また、近所の協力をお願いするチラシの配布を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として言葉遣いに配慮したり、家事などを教えていただく事で本人のできる力を発揮し自身につなげてもらえるような声掛けをしている。	居室へ入室する際はノックと声掛けを行い、プライバシーの確保に努めている。個人情報保護やスライドショーで使用する写真の開示については入居時に同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思でやりたい事を決められるような声掛けや自分で決めるのが難しい方には二択で問いかけて決めやすいように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出をしたいとか、ほしいものがあると聞かれた時には、一緒に買い物や外出に出掛け本人の希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの洋服や馴染みの物は入居時をもって来て頂き、生活歴から化粧の有無でおしゃれが継続できるよう支援している。介護度に合わせ二択で着る物の選択をして頂くなど生活の質の向上に取り組んでいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたい物がある時には一緒に作ったり、食材をきったり味付けをしていただき食事が楽しい時間になる様に支援している。	食事の材料切りや味噌汁作り・盛り付け・配膳・食器洗いなど利用者一人ひとりの能力に合わせてできることを楽しみながら行っている。おやつは利用者の好みに合わせて手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲低下に伴い食事時間にとられず本人のタイミングで食事や嗜好品を食べて頂き水分量や食事量を共有し協力的な支援がおこなえるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方には歯ブラシで歯磨きをしてもらったり、うがいをしてもらい自分で出来ない方には、口腔ケアをし清潔を保てるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況確認表を目安に排泄の間隔を探りトイレ誘導の目安にしたり、排便の状態に合わせてトイレの回数を増やすなど臨機応変に対応し、排泄の自立に向けた取り組みを行っている	排泄状況確認票で排泄時間や間隔を把握し、失敗がないように支援している。この表を使用することで、リハビリパンツからパンツへの移行が実践できている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分がすすむよう、個々が好きな飲み物を冷蔵庫に用意し、食事やおやつ以外でも水分補給に心掛けている。 ラジオ体操や散歩にさそい適度な運動を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意向をききながら、同姓職員で対応したり気乗りしない場合には時間や日をずらす等気持ちよく入浴できる環境に配慮している。	週2～3回、入浴チェック表を基に実施している。利用者一人ひとりのタイミングに合わせてながら、同性介助で行っている。菖蒲湯やゆず湯などで季節感を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室のシーツ交換、空気の換気、ホコリ等をきれいにし環境を整えている。 休まっている時は、音に配慮し静かになる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬カードで薬の内容を確認し理解するようにしている。内服確認、薬による副作用は職員による見守りを交代で行なう事により1日の中で気付けるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を確認し、縫い物、編み物、歌など行うようにし楽しめる様にしている。また、食事、外出も入居者さんの希望を聞き楽しめる様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の好きなおかしがある時は、近くのお店に職員と買い物に行っている。 また、神社や花鳥園など遠くの場合にも出かけられるよう、どこに行きたいか本人の希望も取り入れ支援している。	一人ひとりの要望に合わせ、週2回ほど近所の駄菓子屋や薬局・コンビニエンスストアなどに買い物を兼ねて外出している。天気の良い日には洗濯物を干したり、日向ぼっこをしたりしている。四季折々の花見やドライブにも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時には、ご家族と相談し本人用の財布を個人管理で持ってもらうとともに買い物へ行つた際には支払いができるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により自宅に電話をかけられるよう配慮し、声をかけたり年賀状やお手紙が届いた際には返事が出せるようハガキの用意をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアや廊下の日当たりが良い場所へソファをおき、ゆっくりと過ごせるよう配慮したりフロアには季節の飾りを皆で作し、飾る事で季節を感じられるようにしている。また、音が気になってしまう際はテレビや音楽を時と場合により消すようにしている。	廊下や居間などは広々としており、歩きやすくなっている。また、日当たりも良く心地よい空間となっている。浴室やトイレは写真と文字でわかりやすく表示されている。テーブルには庭先の花を利用者が活け、四季を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア以外の落ち着いた場所にソファをおき、日向ぼっこできる環境を作ったり、中の良い入居者同士が居室で一緒に過ごせる様互いの部屋を行き来しやすい声掛けをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅より、使い慣れた家具やなじみのものを持ってこられるようにしており、安心し居心地よく過ごせる様工夫している。	本人や家族の意向を尊重し、一人ひとりの生活歴に合わせた居室となっている。仏壇や使い慣れた家具・寝具などを持ち込み、これまでの生活が営まれるよう個々に工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には、手すりを設置し安全に歩けるよう配慮しており、また、トイレやお風呂場など場所の張り紙を貼り自分で行きやすいよう分かりやすくしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278300211		
法人名	医療法人社団聖パウロ会		
事業所名	グループホーム明日香	ユニット名	ひまわり
所在地	静岡県浜松市浜北区横須賀63-5		
自己評価作成日	平成30年2月1日	評価結果市町村受理日	平成30年4月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail/2017/022/kani=true&JigvosyoCd=2278300211-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価 調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者一人一人の生活歴や家族との関係性を大切にし、「お互い様の心」の理念の下、自主性や選択肢を大切にし、双方が支えあえる関係性を築きながら自信をもって活き活きと生活が送れるよう支援している。また地域資源や季節ごとの地域の行事も取り入れながら、世代を超えた関わりが持てるように生活支援を行なっている。施設内の行事では外出や夕食等も含め、五感で季節を感じられるように取り組んでいる

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月理念の中から項目を選び、具体的な対応策を決め実践し、職員会議の際に個々の評価を発表して共有し今後に繋げている。	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価票に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板等で地域の行事が書かれている時は入居者さんと一緒に参加している。又、近所を散歩したり挨拶し交流に繋げている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	積極的に地域の行事に参加することで、その時に地域の方から相談され、支援方法などを伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回行い、2ヶ月間の振り返りと今後の予定を話したり、アンケートを出し、意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	防災訓練等で地域の方にも助けて頂ける様にどういった状態の入居者さんが居るのか、紙を配って理解して頂けるように伝えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い、職員理解している。日中は施錠することなく自由に出入りできるようにしており、フロアの見やすい場所には「身体拘束0宣言」のポスターを貼ってある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての勉強会を行い、知識を得る事で日々のケアに活かし注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度は勉強会を行い、理解を深め活用出来るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を見ながら説明を行い、その都度質問しながら理解、納得出来るように伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を行い、市役所職員、地域包括の方にも参加して頂き、質疑応答し議事録を配布して会議の内容を公表している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議前に意見用紙を配布し、自由に提案出来るようにする事で、出た意見を会議で話し合い今後に繋げている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員とコミュニケーションをとり、時には個人面談なども行いながら、向上心に繋がる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1度勉強会を行い、職員全員で共有し、実践している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的にキャリアパスを行い、同業者と交流しながら共に勉強し、今後に繋がられるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	笑顔で寄り添い、コミュニケーションをとることで不安なことなどを聞き出し、介護計画に載せ安心できる生活が送れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に直接不安なことを聞き出したり、センター方式に記入して頂く事で、困っている事を把握し、支えられるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	歯科、美容師、リハビリなど、状態に合わせて訪問サービスが受けられるように相談しながら利用している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	明日香の理念が「お互い様の心」であり、お互いに「ありがとう」と自然に言い、役割分担しながら行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	健康面を相談した際には、体に良い健康食品をお持ち頂いたり、外出や外泊に御協力頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会にお越し頂けるようにお持ち成しをしたり、馴染みの店への買い物や馴染みの場所へドライブに出掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様に席を考え、1人ひとりが楽しく穏やかに過ごせるように職員も間に入り会話を繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方のお見舞いに行ったり、転院された方が亡くなられた時もお別れに行った。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活歴や興味のある事など配慮し、その人らしく生活出来るように家族や本人からの会話の中で探り、ケアしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を得てセンター方式に記入し職員同士共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常記録に残し状態に変化の有った時はラインマーカーを引いてすぐに解る様にし情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状況や本人、家族からの情報を基に往診部やリハビリなどと連携をとり、プランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートを使用したり申し送りの時に変化を伝え合う。又日常記録に書いたりラインマーカーを引いたりして情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御家族や本人の要望に応じて自宅からのリハビリを継続したり、必要な際は訪問歯科などのサービスの利用を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	回覧板等を通じて地域の行事がある時は積極的に参加し、また、コンビニやスーパー、馴染みの店に行く事で楽しみ事や地域交流に繋がっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎日の看護師の訪問の他、発熱の際等協力医療機関へ受診後必要な際は家族と相談し専門医の受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の変化などは職員同士共有し、その都度看護師に伝え、適切な医療を受けられる様支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはまめに様子を見に行きながら状態の把握に努め、受け入れの状態を看護師と相談している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者には終末期のあり方を聞くと共に重度化した際には今後起こりうる事を伝えながら家族と話し合い、医療機関など連携をとっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会で急変時の対応を学び、職員同士や往診とも連携をとり、速やかに対応出来るようにしている。又、消防による救命救急の勉強会も開催している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時緊急体制表を全職員に配り、定期的に入居者、職員、家族とで消防による指導のもと避難訓練を行い、地域に向けても避難誘導表を作成し協力体制を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族や入居者本人から得た情報を職員同士で共有し、個々に合わせた声掛けを行い、男性、女性職員それぞれ入居者から頼られる内容に合わせてプライバシーを守り対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から思いや希望を引き出したり、選択肢を作る事で自己決定しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や周りの環境を見ながら入居者の希望に沿って支援出来るよう職員同士コミュニケーションをとりながら行っている。叶えられない時は代換を提案している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの服や化粧品を用意し、似合うなどと声を掛ける事でおしゃれを続けて楽しめるようにしている。2ヶ月に1回訪問美容に来てもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや盛り付け、片付けを入居者同士も協力して行っている。得意なお汁粉や献立を一緒に考えて作り、食べたい漬物等を用意している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に合わせた食事量を出し、記録に残す事で職員同士で共有し合い、一日の中で栄養水分の確保に努めている。家族が用意した水分や果物などの嗜好品も摂れる様にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自身で歯磨きが出来ない入居者へは口腔シートやガーゼ、スポンジを用い口腔内の清潔保持に努めている。又、介助が必要な方へは身の回りの準備や見守り、磨き残しの確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状況やエツクソードを活用し、個人の排尿間隔を把握することでトイレ誘導を行っている。体調の変化等で一時的に紙パンツやオムツを使用することもあるが職員同士で情報交換をし、布パンツに戻せる様にしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日課としてフロア全体でのテレビ体操を行い、個人の運動能力に応じて階段の昇降や別ユニットまで食材を届けるなど、運動を促し予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者からの希望で毎日入れるような段取りや「夜に入りたい」といった思いへの対応を柔軟に行う事で個々の生活リズムに対応出来ている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や疲れの様子を見て休息を促している。気持ち良く眠れるようにエアコン等で室温調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で処方箋を確認、共有し、内服時の飲み込み確認等を行っている。当日内服する薬も2人で確認し用意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人や家族から生活歴の情報を引き出し、その人にあつた方法で家事を行ってもらったり、興味のある事を行ったり又、散歩や買い物等外出に誘い気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	会話の中から希望を引き出し、花畑や遠出のドライブに行ったり、服を買いに行く等はご家族に協力して頂き、出掛けられる様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛けた際にはお財布を渡し、会計をしてもらっている。又、自分で管理出来る方はお金を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望で電話を使いたい時は使えるようにし、個人で携帯電話を持たれている方もいる。又、年賀状を送る事で家族とのやり取りも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてフロア内の飾り付けを入居者と一緒に行い、居室に花を飾り、明るい空間を作っている。又、フロアやトイレ等こまめに換気を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には馴染みの物を置き、心地よく過ごせる様にし、フロアではテレビの見られる位置にソファを置き、風船を用いバレーを行ったり、入居者同士が楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や馴染みの家具や布団を持ってきて頂くことで安心して過ごせる環境を作っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の得意な事や力に応じて、掃除や家事仕事などその人の出来ることを大切にして行っている。		